

まなびやまと

市立小中学校に 一人一台のパソコンを整備 ～毎日の学習のツールとして活用～

文部科学省の「GIGAスクール構想」に基づき、大和市は10月下旬から年度末にかけて市立小中学校に一人一台のパソコンを整備しました。各学校では、使いたい時にすぐに手に取れるパソコンを生かした学びが始まっています。

＜意見文を推敲しよう 鶴間中学校＞

1月21日(木)、国語科の授業では、生徒がパソコンを活用して意見文を推敲していました。

2年4組では、「提案モード」という機能を活用しました。他者の意見文を画面上で読み、感想や提案をその画面に直接うちこみます。自分に寄せられた教員や他の生徒からのコメントは記録として残るため、それらを参考にしながらより説得力のある意見文に仕上げることが出来ます。中には、Google検索も活用し、正しい表現かどうか確認する生徒の姿も見られました。



3年1組では、「ロイロノート・スクリーン」というアプリ(以下、ロイロノート)を

使い、協働学習に取り組んでいました。生徒は意見文を書いた自分のプリントを撮影し、「クラスの提出箱」というパソコンのフォルダへ提出します。その後、提出箱に集まった全員の意見文を一人ひとりが画面上で読み、そこから学んだことを自分の意見文に反映させていました。

＜課題を受け取り、提出 渋谷小学校＞

1月25日(月)、渋谷小学校の5年2組の児童は、担任から真新しいパソコンを受け取り、「思ったより軽いなあ」と、大切そうに両手で持ち、自分の席へ運んでいました。

児童が最初に行ったのは、パソコンへのログインです。アカウントカードに記載されている数字やローマ字などを正しく入力し、次の画面に変わるとに安堵の表情を浮かべていました。



教員が「皆さんのパソコンに課題を配ります」と話すと、「何が来るんだろう」と目を輝かせていました。そして児童のパソコンには、「算数の問題」が届きました。

パソコン操作の学習を終え、「全部、楽しかった!」と感想を語っていました。

紙に書いて提出ではなくパソコン内でのデータのやり取りに、児童の期待は膨らみます。

＜録音機能を生かした日本語指導

やまとプレクラス

「やまとプレクラス」とは、来日したばかりの子どもたちに、日常生活や学校生活の適応指導および日本語指導を行っている教室です。冬季休業期間の12月25日(金)・28日(月)、1月5日(火)・6日(水)の4日間、パソコンを活用して「自分のことを紹介しよう」という日本語指導が行われました。ロイロノートの録音機能を使い、自分の声をふきこみ、発表用の自己紹介スライドを作りました。

1月6日(水)・7日(木)、ベテルギウス3階において発表会が行われ、中学生5名が参加しました。

発表会后、生徒は「何度もナレーションを録音し直したのが大変でした」と、学習を振り返っていました。また、「もう一度、見たい」と、友だちの気になるスライドを何度も視聴する生徒もいました。

パソコンを活用した学びが、やまとプレクラスに通う子どもたちの日本語理解に役立っています。



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市立小中学校はおよそ2ヶ月間の臨時休業となりました。その後、新しい生活様式が始まり、学校は今までもは異なる環境の中ですが、児童生徒は前向きに学習に取り組んでいます。

興味のあるテーマを 夢中で探究！

～総合的な学習の時間を活用して～
大和市立下福田中学校

大和市教育委員会から「教育課題研究推進校」の委託を受け、下福田中学校では、研究2年目を迎えました。同校は、研究テーマを「生徒とともに創る主体的な『学び』の場」と掲げました。生徒が夢中で学習する場をつくろうと、全クラスで「探究の時間」の場を設定し、総合的な学習の時間として取り組んでいます。



ツヤ料理、アニメ、ゲーム、衣服等、テーマは多岐に渡ります。同校の教員は『探究』を始めるにあたり、本校の全教員で



徒の探究に寄り添い支援していく。ときには、一緒に悩み考えることで「指導方法を語っていました。」

11月10日(火)に行われた中間発表会では、生徒は展示物を使ったり、実演したりしながら保護者を含む参観者に向けて探究の成果を紹介しました。料理に関する発表の一つである「調べてびっくり!」ぬか漬けの様々な発見では、野菜の他、魚や豚肉等、様々な種類の食材をぬかに漬けてどのような味がしたかという調査の報告や、ぬか漬け日数の異なるきゅうりの味比べ等を通し



て、様々な発見に至るまでのプロセスが発表されました。その興味深い内容に、参加者は聞き入っていました。

11月下旬から、2年生は引き続き、また1年生は初めて「探究の時間」を開始しました。これから、どのような探究へと発展していくのか楽しみです。

学校の歴史を感じて ～創立50周年記念式典～ 大和市立緑野小学校

11月21日(土)、同校では、創立50周年記念式典が開催されました。密を避けるために、本会場の体育館と各教室とをSkypeでつなぎ、体育館に同校6年生・教職員・保護

者・来賓の代表が集まり、各教室に1年生から5年生が待機する中、式典の幕が開きました。リモートによる開催は初めての試みでしたが、Skypeを通して5年生による祝福メッセージが各会場へと無事に届けられました。また、事前に録画された1年生から4年生の祝福動画も紹介され、体育館は大きな拍手に包まれました。



第1部では、稲葉校長、実行委員長の鈴木さん、来賓の柿本教育長からお祝いの言葉がありました。また、児童代表からは、「創立50周年スローガン『みんなであつないだ50年 未来へつなごう 希望のバトン』と『キャラクター』みどりん』の紹介がありました。最後に、6年生による校歌の演奏が行われ、第1部は締めくくられました。

第2部では、記念事業実行委員会の作成したスライドショーが上映されました。創立した年から今日に至る50年の歴史がまとめられ、参加者は歴史を噛みしめながら視聴しました。

創立50周年を記念して、同校南側フェンス沿いに、一本の可愛らしい小さな八重桜が植樹されました。同校の新たな歴史は、この八重桜が見守り、そして大木へと成長を遂げる過程とともに刻まれていきます。



ICTを活用し 学びの深まりを目指して

～推進校としての取組みから～
大和市立引地台小学校



それぞれの役割に熱心に取り組んでいきます。撮影したビデオはその場で確認でき、撮り直しも可能という良さを生かして活動して

ていました。各グループで撮影したビデオはクラス全員で視聴し、1年生に分かりやすく伝えることができています。話し合い、ストーリーの修正を加えて再度撮影に取り組みました。

1年生に分かりやすく紹介したいという思いがグループやクラス内での対話につながり、児童は主体的に活動に取り組むことができました。

大和市教育委員会から「教育の情報化推進校」の研究委託を受けた同校は、研究テーマを「主体的・対話的で深い学び〜ICT活用の試行〜」と掲げ、ICTの活用による学習効果の高まりを目指し、令和元年度より2年間、授業実践に取り組んできました。



11月13日(金)、市内小中学校の教員に向けてオンラインでの実践発表が行われました。柿本教育長、横井校長の挨拶をはじめ、同校の授業実践報告がありました。茨城大学准教授・小林氏による講演では、同校の取組みを通して、「児童が繰り返しICT機器を使うことの大切さ」について語られました。



下水はいつたいたいどこへ？

～ゲストティーチャーをお招きして～
大和市立北大和小学校

7月13日(月)、北大和小学校で4年生を対象にした、大和市役所下水道経営課の職員による下水道出前授業が行われました。この事業は、下水道の正しい使い方の啓発を目的として取り組まれています。今回の授業は、社会科「水はどこから」の1環として計画されました。



授業では、オリジナルテキスト「下水道のはなし」を使い、下水道の役割や下水管の大きさ、浄化センターの仕組みなどについて学びました。また、下水管の実物の紹介や、トイレトペーパーとティッシュペーパーを水ボトルに入れて溶け方を比べる実演がありました。児童は見るもの聞くもの全てが初めて知ることばかりで、「初めて知ったことがたくさんあり、驚きました」「微生物の力で水をきれいにしているなんて、すごいと思いました」「汚れた水をきれいにするまでに、いろいろな作業をしていることがわかりました」と、感想を話していました。

プログラミングロボットを動かそう！

～放課後寺子屋
チャレンジプログラミング教室～
大和市立林間小学校

大和市立全小中学校では、1月から小学校2年生以上を対象として、ロボットを利用した発展的なプログラミング教室がスタートしました。全校で3月までに3回実施されます。「Studio Uno」というソフトを使用し、パソコンでプログラミングした通りにロボットが動くかどうかを試します。

1月22日(金)、林間小学校での課題は、「衝突防止ロボットカーをプログラミングしよう」です。「5秒前進し止まる」というプログラムをロボットカーに転送し、ロボットの電源を入れます。児童は「いち、に、さん」と数え、本当に5秒間で止まるのか試していました。止まらなかったときは、再度プログラムを見直して挑戦し、課題をクリアするたびに、「できた！」と喜んでいました。中には、ヒントなしで、前進するロボットカーが障害物の手前で止まり、再び前進するプログラムを作った児童もいました。プログラムした通りに動くロボットカーを前に、参加した児童は大興奮でした。

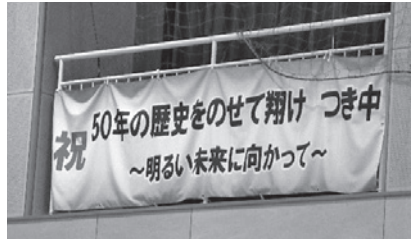


おらが学校

生徒主体の学校を目指して
大和市立つきみ野中学校

〈50周年記念式典を終えて〉

11月20日(金)、大和市立つきみ野中学校創立50周年を祝う記念式典が本校体育館で行われ、大和市長をはじめ、来賓の方々にご出席いただきました。新型コロナウイルス感染症対策のため、3年生のみ体育館に集まり、1・2年生は各クラスにあるパソコンとプロジェクターを通じての参加となりました。卒業生で、かながわ音楽コンクールピアノ部門準大賞者の岡田季樹さんからは、お祝いとしてピアノ演奏の披露がありました。式典の最後は、3年生が50周年記念として三部合唱にアレンジした本校校歌を披露しました。



「50年の歴史をのせて翔けつき中」
「明るい未来に向かって」は、昨年度の12月に決定された記念テーマです。今年度は校内に中学校の歴史を振り返るパネルが展示されています。

〈第50期生徒会での活動〉

令和2年1月、生徒会では、「生徒主体の学校作り」新しいことに「チャレンジ」という年間目標を設定しました。まず生徒から意見を集めるための「目安箱」を2個から9個へ増設し、意見を集めやすい環境を整えました。目安箱に集まった意見とそれに対する生徒会本部の返事を掲示したことで全校生徒が意見を共有できるようになり、その結果、目安箱への信頼を得ることができました。



今年度は、目安箱に多く集まった「昼休みの体育館開放」を実現できました。昼休みに校庭やバレーコート等に生徒が集まり密になったため、体育館を開放しようと考えました。一クラス単位での使用とし、使用後は用具の消毒を行い、感染症対策に努めるという工夫をしています。

その他、新しい掃除用具を各クラスに配布し、掃除しやすい環境を整えました。その際も目安箱を活用してアンケートを行い、学校全体の意見を取り入れながら掃除用具選びができました。今回の目安箱の活性化により、学校生活が充実し、生徒主体の学校に近づけることができたと感じています。これからも、目安箱への関心を高め、より多くの意見の実現を目指していきます。

登下校中の

安全・安心のために

大和市子ども見守り隊

3学期の初日となる1月8日(金)、背中に「大和市子ども見守り隊」と書かれた黄色のベストを着用し、地域の方々が交差点や横断歩道に立ち、子どもたちの登校を見守りました。

大和市では子どもたちの安全・安心を守るため、2019年8月26日に「大和市子ども見守り隊」が発足し、より一層子どもたちの登下校時の見守り活動の充実を図っています。

7時50分、大和市子ども見守り活動協議会の会長を務める山元さんは、北大和小学校に通う児童の登校を見守るため、歩道橋に向かう横断歩道に立っていました。学校へ向かう児童が挨拶をしながら次々と通り過ぎていきます。「交差点や横断歩道等、交通量の多いところに大人が一人でも立っていたら、未然に子どもたちの交通事故を防ぐことができるかもしれません。『子どもたちの命を守りたい』という一心で見守り隊をしています」と話す、山元さん。見守る場所と時間帯



「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。お読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

お問い合わせ 大和市教育委員会
指導室 260052110
教育研究所 260052113

は、あえて毎回同じにし、横断歩道の端に立つことも意識しているそうです。「そうすることで、運転手さんも安全運転を意識しますし、蛍光色のベストのため、遠くからでもよく目立ちます。このベストが運転手さんへの合図にもなりますからね」と、その理由を教えてくださいました。

8時15分に、見守り活動は終わります。「見守り活動を通して、私はいつも子どもたちから元気をもらっています。コロナ禍で大変な毎日ですが、朝から子どもたちの元気な挨拶が飛び交うまちにしたいですね」と、思いを話してくれました。今日も、子どもたちの安全・安心のために、見守り隊活動は続いています。

